

見守るって大切！

子どもが何かに挑戦している時、つい手を貸したくなりませんか？何かにつまづいて困っている姿を見ると、「手伝ってあげたい！」という気持ちが自然に湧いてきます。

私も日々、子ども達と関わる中でこの気持ちと葛藤しています。

でも、その瞬間こそが子どもが自分の力で考え、工夫し、成功体験を積むチャンスなのかもしれません。

子どもは毎日たくさんの"挑戦"と出会っています。

靴を履く、服を畳む、友達に声をかける…どれも大人から見たら小さなことかもしれませんが、子どもにとっては「自分でやってみる」大きな一歩です。

私達職員はそのような場面に出会った時、すぐに手を貸すのではなく、子どもが自分で気づき、工夫し、やり遂げるまでの時間を大切にしています。

その中で子どもは「出来た！」という達成感を味わい、自信を育んでいきます。

先日、メリッサクラスの子が一生懸命服を脱ごうとしていました。私の元に来て、「出来ない」と座り込んでいます。

手伝ってあげたい気持ちをぐっと堪え「出来なくて困ってたんだね」

「先生見てるから、一緒にやってみよう」と気持ちに寄り添い、脱ぎ方を伝えました。

その声掛けがあっただけで、自分で袖を引っ張り脱ぐことが出来ました。

そして「出来たね！」と承認する。（これは大事です）

褒める、というより出来たことを認めるだけで、子どもは満足します。

見守ることと手伝えることのバランスの難易度は高いですが、子どもの様子に合わせて対応しています。

ご家庭でもきっと「見守る」場面がたくさんあると思います。

手を貸すことも大事ですが、ほんの少しだけ待ってみることで子どもが自分の力を発揮する瞬間に出会えるかもしれません。

これからも子ども達の「やってみたい！」という気持ちを大切にしながら、そっと背中を押していきます。

子どもの「自分で出来た！」「頑張っていた！」というお話、今後もたくさん共有していきましょう♪ （岩田）

